

# 大鹿村男女共同参画プラン

## 目 次

### 第 1 章 プランの策定にあたって

1. 計画の目的	1
2. 計画の性格	2
3. 計画の期間	2

### 第 2 章 基本理念と基本目標

1. 基本理念	3
2. キャッチフレーズと基本目標	3

### 第 3 章 基本目標の内容

#### 基本目標 1 男女が分かち合える関係づくり

1. 意識改革に向けた啓発・普及	4
2. 男女平等に向けた教育・学習の推進	6
3. 男女間の暴力及びセクシャル・ハラスメント等をなくす	8

#### 基本目標 2 男女が認め合える環境づくり

1. 男女が共に働きやすい環境の整備	10
(1) 農林業及び商工業等の自営業者の支援	10
(2) 雇用における男女の機会均等	12
2. 男女が共に担う家事、子育て、介護	16
3. 政策・方針決定への女性参画の拡大	19

# 第1章 プランの策定にあたって

## 1. 計画の目的

男女の平等をめざした法や制度の整備が進み、女性の地位は確実に向上してきました。しかしながら、その一方では依然として男性が優遇されている状況がみられたり、「男は仕事、女は家庭」といった性別にとらわれた固定的な役割分担意識が残っているなども事実です。

性別による役割の固定化は、多様な生き方の可能性を狭めることとなります。人権を尊重し、性別による差別をなくすことは、一人ひとりの人生を充実した豊かなものにすることにつながります。また、少子・高齢化や家族、地域を取り巻く社会状況の変化など、社会が急速に変化するなかで、真に豊かな社会をつくるためには、性別にかかわらず、家庭生活、地域活動、仕事などをバランスよく営むことが求められています。

この計画は、男女が家庭、地域、職場においてお互いに対等なパートナーとして尊重し合い、あらゆる政策決定の場に共に参画し、より良い社会の発展を進める「男女共同参画社会」の実現をめざすものです。

### ●家庭では

性別にかかわらず誰もが共に家族の一員として、積極的に家事・子育て・介護などに参画し、喜びも責任も分かち合い、家族の一員である語りを実感しています。また、男性も女性も仕事と生活とのバランスのとれた生き方が実現しています。

### ●地域では

性別による固定的な役割分担に基づくしきたりや慣習が見直され、地域活動などのさまざまな活動やコミュニケーションが充実し、誰もが地域の一員として住みよさを実感しています。また、男性も女性も対等に方針決定の場にかかわり、まちづくりに貢献しています。

### ●職場では

女性にとっても、男性にとっても働きやすい職場環境が確保され、個人の個性、能力、意欲が十分に発揮されています。また、女性の参画が進み、方針決定等の際に新しい視点が盛り込まれています。

## 2. 計画の性格

この計画は、村の総合計画である「大鹿村第四次総合振興計画」に基づく個別計画であり、大鹿村における男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを総合的に推進するためのものです。

また、計画の推進にあたっては、行政のみならず村民一人ひとりが計画の趣旨を理解し、家庭や地域、職場において自主的、積極的に行動することが求められます。

## 3. 計画の期間

この計画は、平成 27（2015）年度から、平成 36（2024）年度までの 10 年間を計画期間とし、5 年後に見直しを行うこととします。

## 第2章 基本理念と基本目標

### 1. 基本理念

女性の基本的人権を尊重するとともに、男女平等を生活の中に根付かせます。

人権の尊重と男女の平等

### 2. キャッチフレーズと基本目標

キャッチフレーズ

分かち合い 認め合いの村づくり

#### 基本目標1 男女が分かち合える関係づくり

家庭や地域において根強く残る男女の役割の区別や地域の慣習を見直し、男女間で不平等だという環状がなくなるよう、男女が互いに尊重しあい、家庭・地域における役割を分かち合える関係づくりを進めます。

##### 《 進め方 》

- (1) 意識改革に向けた啓発・普及
- (2) 男女平等に向けた教育・学習の推進
- (3) 男女間の暴力をなくす

#### 基本目標2 男女が認め合える環境づくり

男女が互いに相手に対する思いやりを持って生き、それぞれの個性を認め合っ  
て、家庭、地域、職場での役割をバランスよく果たしていける、いきいきと暮ら  
せる環境づくりを進めます。

##### 《 進め方 》

- (1) 男女が共に働きやすい環境の整備
  - ① 農林業及び商工業等の自営業者の支援
  - ② 雇用における男女の機会均等
- (2) 男女が共に担う家事・子育て・介護
- (3) 政策・方針決定への女性参画の拡大

# 第3章 基本目標の内容

## 基本目標1 男女が分かち合える関係づくり

### 1. 意識改革に向けた啓発・普及

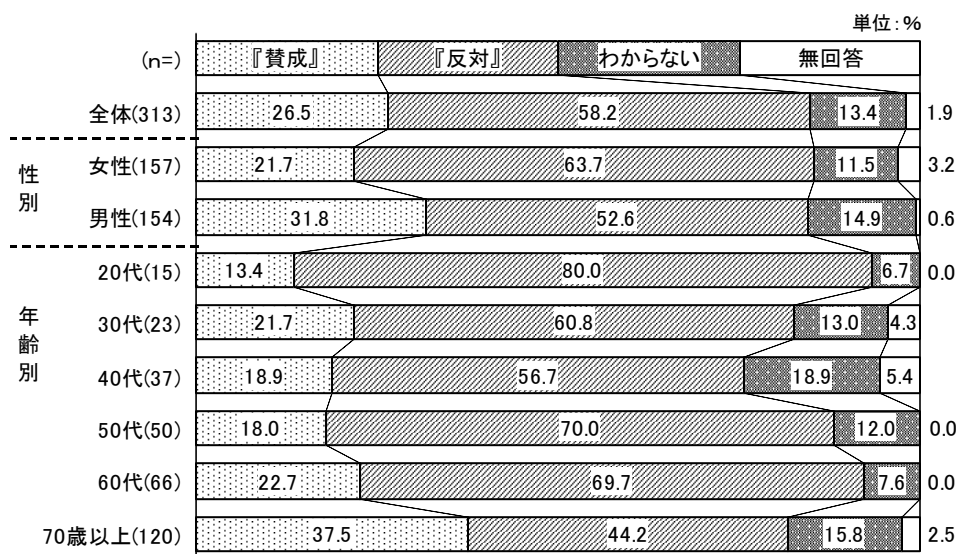
「男は仕事、女は家庭」あるいは「女だから」「男だから」といった考えは、次第に変化してきていますが、「女らしさ、男らしさ」といった意識は、依然として私たちの心にあります。このような意識を背景として家庭や地域において女性を一人前と見なさないようなしきたりや慣習が残されています。

アンケート調査では、「男は仕事、女は家庭」という考え方に「賛成である」及び「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』は26.5%、4人に1人でした。年齢別にみると70歳以上は37.5%と3人に1人以上が『賛成』としており、年齢の高い層で固定的役割分担意識が根強く残っています。また男女が「平等になっていない」分野で最も多いのが「社会通念・慣習・しきたり」で50.5%、2人に1人があげています。

性別による固定的な役割分担を前提とした「社会通念・慣習・しきたり」は、アンケート調査からもわかるように男女共同参画の推進を阻害する大きな要因となっています。

男女の人権尊重の観点から「社会通念・慣習・しきたり」を必要に応じて見直すとともに、村民一人ひとりの男女平等の意識を深めるための広報・啓発活動に積極的に取り組むことが必要となっています。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について



分野別の男女平等について

単位：%

n=313	平等になっている	平等になっていない	どちらともいえない	無回答
ア 家庭生活	29.7	31.0	31.9	7.3
イ 職場	21.7	34.5	26.2	17.6
ウ 地域社会	18.5	39.0	32.3	10.2
エ 社会通念・慣習・しきたり	7.3	50.5	31.0	11.2

## 〈 具体的な取り組み 〉

### 1. 男女共同参画に関する啓発の推進

男女共同参画に関する認識を深め、家庭、地域、職場におけるさまざまな性別に基づく固定的な慣習・慣行の見直しを進めることができるよう広報・啓発活動を推進します。

### 2. 男女共同参画の状況把握と情報の提供

男女共同参画に関する村民の意識や事業所の取り組み状況などを把握し、村民に情報提供します。

#### 村民の意見から

- 男の役割と女の役割は違うことがあって良いと思います。真の平等は、男女平等をとり違えないで、取り組んで欲しいです。(女性・30代)
- 教育や、社会の中でどうしても男だったら、女だったら、男らしく、女らしくという考えがつかまとう。それが男女共同参画の概念の邪魔をしていると思う。性別問わず、個人の希望や特性をみつめていく視点が望ましいと考える。(女性・30代)
- 村の人達がこんな意識を持つようになればと考えます。まずは『女性の頑張りを認めること』『女の人なのにあの人すごいね』『女のくせに・・・!』という考え方を身の回りから捨てること。「女性だからこの仕事は無理だろう」と決めつけないこと。男性ができることは、女性も必ずできます！同じように女性ができることは男性も必ずできます。枠を作ることは止めましょう。(女性・40代)

## 2. 男女平等に向けた教育・学習の推進

男女共同参画社会を実現するためには、村民一人ひとりが男女共同参画についての意識を持つことが大切です。そうした意識を育むために学校、家庭、地域における教育・学習の果たす役割は重要です。

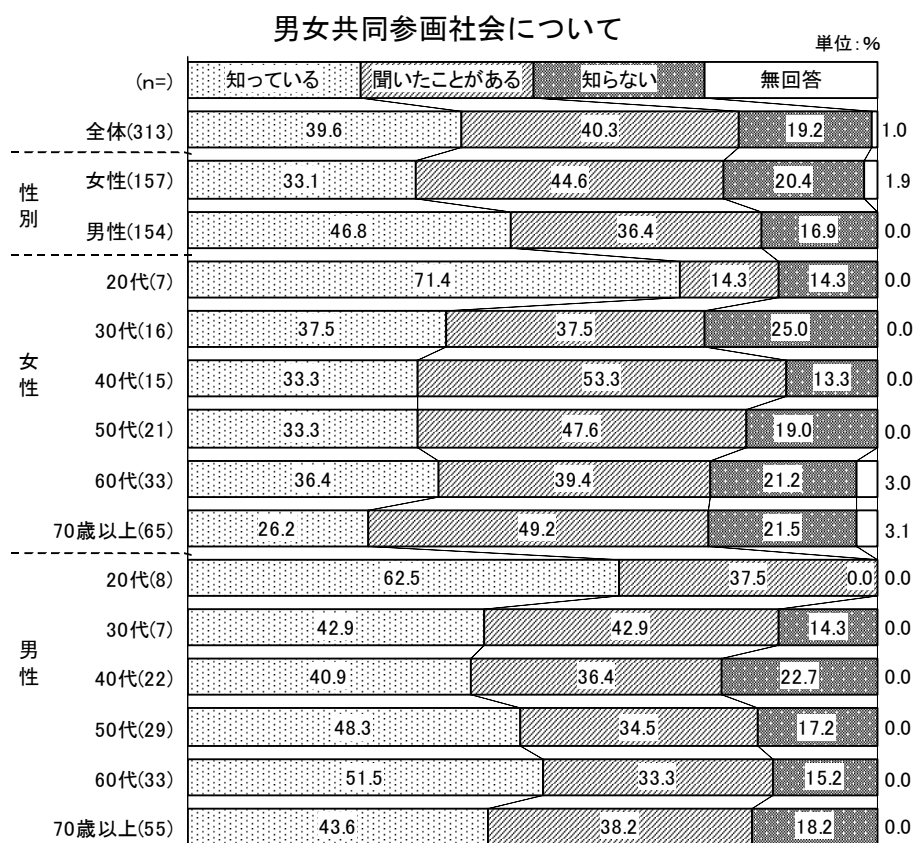
アンケート調査では、男女共同参画社会について「知っている」及び「聞いたことがある」ともに約4割ですが、残りの約2割は「知らない」としています。「知っている」は20代に多く、女性で約7割、男性で約6割となっています。30代以上とはかなりの差がありますが、30代以上では女性よりも男性に「知っている」との回答が多くなっています。

学校教育においては、教育活動全般において男女平等に関する教育が進められてきています。しかし、近年の急激な社会変化は青少年をめぐる男女間の暴力や性行動の問題等が増え、社会問題となってきました。

今後、学校教育活動全般に男女平等の視点を取り入れ、児童生徒の発達段階に応じた男女平等に関する教育を積極的に進めていく必要があります。

一方、家庭における教育やしつけ、地域の慣習により、子どもたちは無意識のうち性別による固定的な役割分担意識を身に付けてしまうことから、家庭、地域において男女共同参画に対する正しい理解を進めることができるよう、学習の場や機会の提供が必要となっています。

ちなみに男女共同参画社会の実現に向け村で力を入れるべきこととして「男女平等教育の推進」は比較的上位にあげられています。なかでも男女とも20代の回答が多いものとなっています。





男女共同参画社会の実現に向け村で力を入れるべきこと

単位：%

性別	n=	女性問題についての講演会、広報紙やパンフレットなどでの啓発活動	男女平等教育の推進	審議会等への女性の参加促進	男性への家事や子育て、介護などの教育	相談窓口の設置	女性への暴力、就業、法律、育児、教育など女性	女性の生涯学習機会の充実	女性の職業能力開発の支援	女性の健康を保持・増進するための施策	介護の必要のある高齢者や障害者等の家庭での介護への支援	保育所の充実や子育て家庭への支援	その他	無回答
		女性	157	3.8	14.0	7.6	37.6	4.5	12.1	19.7	12.1	54.1	21.7	1.3
男性	154	5.8	17.5	13.6	21.4	3.9	2.6	18.2	12.3	47.4	23.4	2.6	9.1	
性・年齢別	女性-20代	7	0.0	28.6	0.0	28.6	0.0	28.6	28.6	0.0	28.6	42.9	0.0	0.0
	女性-30代	16	6.3	12.5	6.3	31.3	0.0	6.3	6.3	12.5	56.3	50.0	0.0	6.3
	女性-40代	15	6.7	6.7	0.0	40.0	20.0	6.7	33.3	6.7	33.3	26.7	0.0	0.0
	女性-50代	21	0.0	9.5	19.0	57.1	0.0	0.0	23.8	9.5	47.6	19.0	4.8	0.0
	女性-60代	33	12.1	15.2	3.0	45.5	6.1	0.0	18.2	12.1	54.5	21.2	3.0	3.0
	女性70歳以上	65	0.0	15.4	9.2	29.2	3.1	23.1	18.5	15.4	63.1	12.3	0.0	3.1
	男性-20代	8	0.0	37.5	0.0	25.0	0.0	12.5	12.5	12.5	37.5	25.0	0.0	12.5
	男性-30代	7	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0	28.6	14.3	42.9	0.0	0.0
	男性-40代	22	0.0	4.5	4.5	36.4	0.0	4.5	9.1	9.1	22.7	36.4	9.1	18.2
	男性-50代	29	3.4	10.3	13.8	20.7	6.9	0.0	24.1	6.9	65.5	27.6	3.4	3.4
	男性-60代	33	9.1	15.2	12.1	15.2	6.1	3.0	24.2	6.1	48.5	30.3	0.0	9.1
男性70歳以上	55	7.3	25.5	20.0	18.2	1.8	1.8	18.2	18.2	52.7	9.1	1.8	9.1	

〈 具体的な取り組み 〉

1. 男女平等教育の推進

保育園や学校においては、子どもの発達段階に即した男女平等に関する教育を推進するとともに、互いの人権を尊重しようとする意欲や態度が育成される教育を推進します。

2. 家庭教育・社会教育の充実

家庭教育や地域における学習活動を推進する各種教室や地域における学習会を支援します。

3. 相談体制の整備

性や性差別、進路等について児童・生徒、若年者を対象とした相談体制を整備します。

村民の意見から

- 家事が男女平等にできるための教育。一人になったとしても、家事全般ができれば生活していけると思うから。(男女共に学ぶと良い) (女性・50代)
- 男尊女卑の習慣から抜けきっていない。古い体質がまだ残っている。男女平等教育の推進や女性の立場や(男性も女性も共に)時代認識を高める事である。(男性・70歳以上)

### 3. 男女間の暴力及びセクシャル・ハラスメント等をなくす

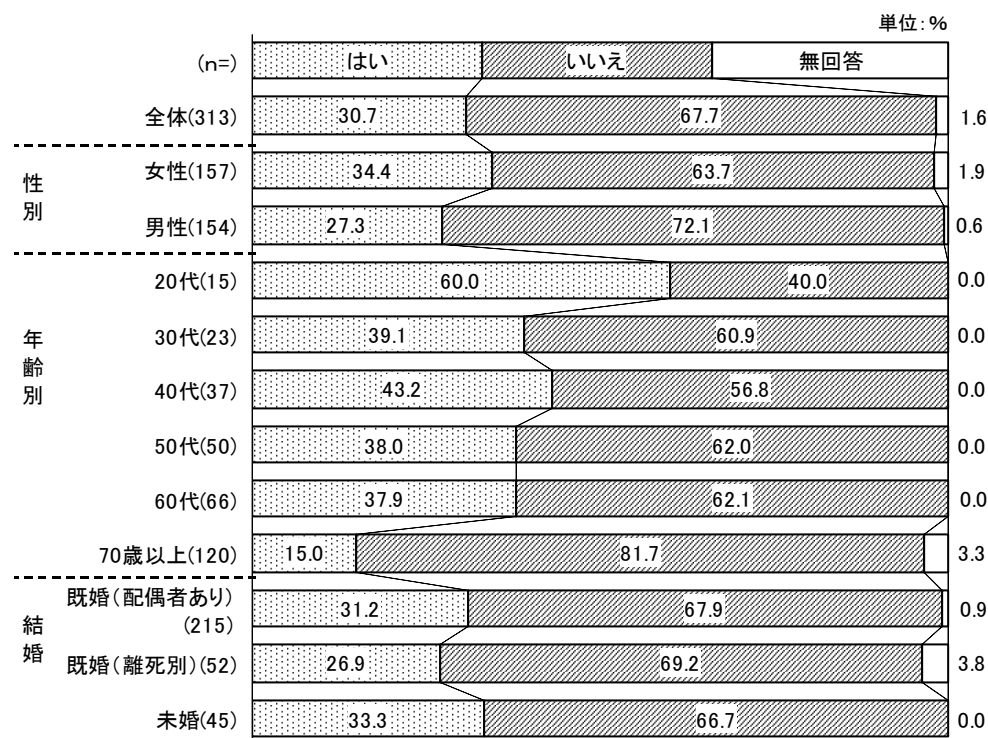
セクシャル・ハラスメント等については、法制度の整備により、社会的な認識は徐々に広まりつつあります。

しかしながら男女間の暴力等は人権を侵害する重大な問題であるにもかかわらず、依然として社会の理解は不十分となっています。特に被害が潜在化しやすい配偶者等からの女性への暴力が多く、内容は、精神的なものから身体的な暴力、性的暴力とさまざまなものがあります。

アンケート調査では、配偶者等から暴力を受けたということを周りで聞いたことがあるとの回答は約3割であり、年齢では20歳代が6割と多くなっています。

男女間の暴力は、なかなか周囲で見分けにくく、介入しにくい問題でもあります。性別による固定的な役割分担、経済力の格差や上下関係等、今日男女の置かれ散る状況や差別意識に根ざしたものであることを認識してもらい、配偶者等からの暴力が犯罪であることの啓発を一層充実する必要があります。関係機関・団体と連携し、被害者の立場に立った迅速かつ適切な対応に努めます。

配偶者等からの暴力を周りで聞いたことがあるか



## 〈 具体的な取り組み 〉

### 1. 暴力を許さない意識啓発

たとえ夫婦間であっても暴力は人権侵害であるということについて、村民の意識啓発に努めます。

### 2. 被害者の支援

関係機関・団体との連携を図り、被害者が相談しやすい、また被害者救済につながる環境づくりを図ります。

### 3. セクシャル・ハラスメントの防止対策

雇用の場をはじめ、あらゆる場面におけるセクシャル・ハラスメントの防止に向けた意識啓発や相談体制の充実など防止対策を図ります。

#### 村民の意見から

- ・現代はセクハラがなくなりました。それだけでも勤めをしやすい。私が勤めた時代（昭和 36～50 年）は女の適齢期ということが社会一般にいわれ、女は 24 歳くらいで嫁に行くのがいいと言われました。この年齢をすぎて勤めを続けているとまだいかないの、まだひとりか等、今いうところのセクハラが堂々で行われている時代でした。今は、それがないだけでもいい。改善されています。

## 基本目標 2 男女が認め合える環境づくり

### 1. 男女が共に働きやすい環境の整備

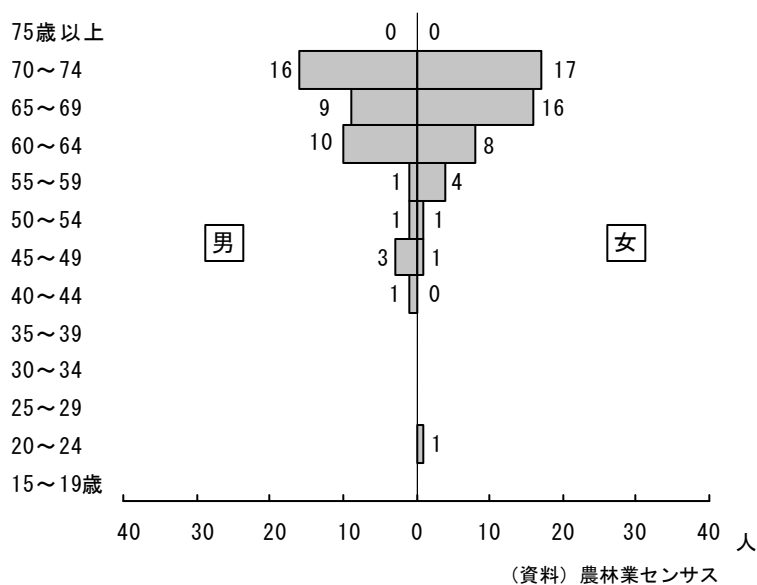
#### (1) 農林業及び商工業等の自営業者の支援

農林業や製造業、サービス業の自営業においては、女性が生産や経営の担い手として重要な役割を果たしています。販売農家の農業就業人口は平成 22 年女性 48 人、男性 41 人ですが、そのほとんどは 60 歳以上となっています。

村では総世帯数の約 4 割が農家です。労働力を家族で担うことがほとんどであるため個人の貢献度がわかりにくく、また、地域に残っている慣行・慣習と相まって男性が経営者として家族を代表する例が多く、女性の経営へのかかわりは少ないのが現状です。

また、製造業、サービス業等の自営業者は、女性が少ないこともあり、経営へのかかわりは少ないのが現状です。

農業就業人口〈販売農家〉（平成22年）

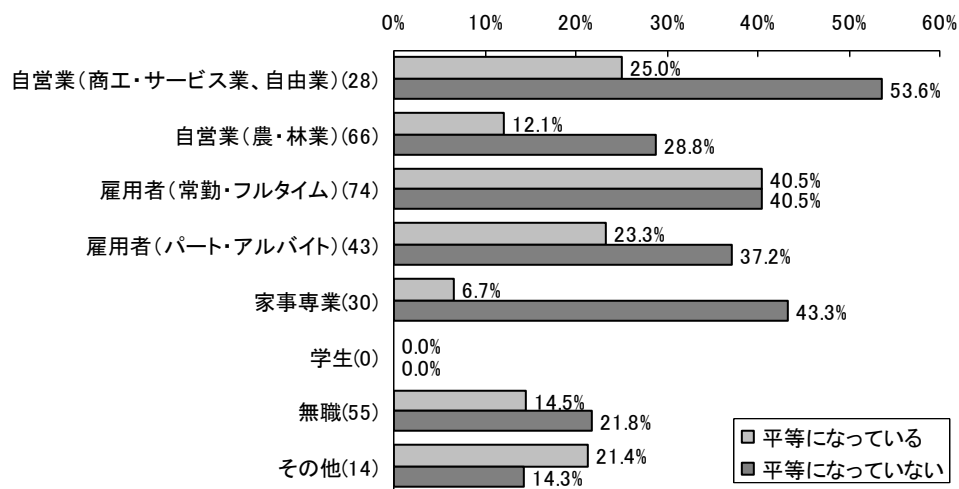


アンケート調査では、職場が平等になっているかについて「平等になっていない」は商工業等自営業者が 53.6%と最も多く、農林業者 28.8%とともに、「平等になっていない」が「平等になっている」を上回ります。

男女が対等なパートナーシップを確立し、女性の貢献に対する正当な評価と経営活動に参画できる環境を整備していく必要があります。

一方、農業を担っている女性が農家民宿や農産物の加工を行ったり、直売所で販売したりする起業活動や 6 次産業化への取り組みが活発になっており、積極的な支援が必要となっています。

## 職場が「平等になっている」「平等になっていない」



### 〈 具体的な取り組み 〉

#### 1. 農林業及び商工業者の意識と行動の変革

農林業者及び商工業者等の自営業の意識と行動を変革するための啓発活動を進め、女性の経営や事業運営の方針決定への参画を妨げる固定的な社会通念・慣習・しきたりの見直しに努めます。

#### 2. 農業経営へ参画する女性の支援

家事・子育て・介護に関わる女性の負担の軽減や、女性の労力に対する適正評価や対等なパートナーとして農林業経営に参画するための家族経営協定の締結を促進します。

#### 3. 起業や6次産業化への取り組みの支援

農業加工技術や経営管理能力の向上を図るため必要な知識・技術の研修機会を提供するとともに、起業や6次産業化への取り組みのための支援を行います。

#### 4. 女性経営者の育成

商工会女性部の自立的な活動を支援することにより、女性経営者の育成を図ります。

#### 村民の意見から

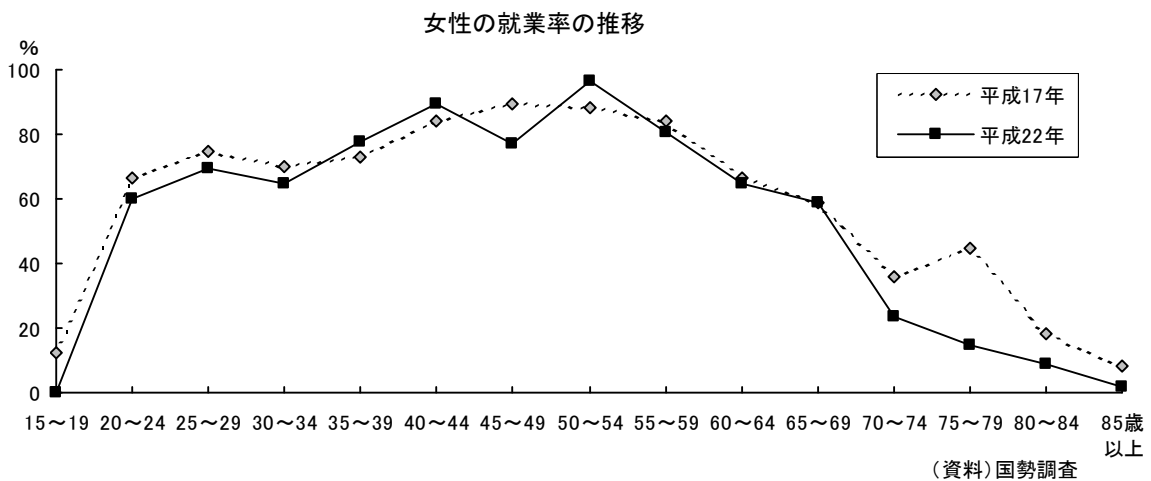
- ・定住、移住、1ターン、農山村留学受け入れ準備の充実と発信。こういった事を進める事で女性の働く場を確保したり、女性が生き生きと生活できる場をつくる。(男性・50代)
- ・村の現状についての資料を作成し、多く村民に周知してほしいです。(男性・50代)

## (2) 雇用における男女の機会均等

女性の就業率は、平成22年39.9%、約4割となっており、平成17年の51.3%と比べ大幅に低下しています。年齢別では40歳前後及び50歳代前半で就業率が高まっていますが、高齢化が進み、70歳以上では大幅に低下しています。

アンケート調査では、以前に比べて女性の地位向上について聞いています。女性の地位は向上したと「思う」と回答した6割の人は、「女性の雇用・労働条件が改善されてきた」をあげています。しかしながら女性の地位が向上したと「思わない」と回答した人のやはり6割が「女性の雇用・労働条件が改善されていない」をあげています。

このように、雇用の場における男女間の格差については意見の分かれるところとなっていますが、男女雇用機会均等法や育児・介護休業法などの趣旨及び内容を事業主に周知していくことが必要です。

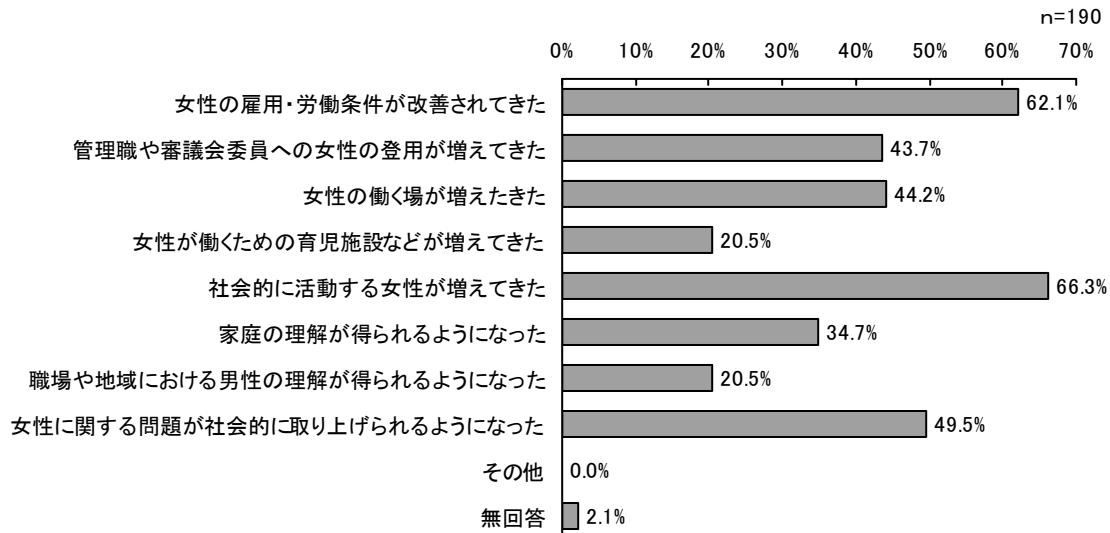


### 女性の地位は向上しているか

単位: %

(n=)	性別	年齢別	女性の地位は向上しているか					割合 (%)
			思う	思わない	変わらない	無回答	無回答	
全体(313)			60.7	8.6	15.0	12.8	2.9	
女性(157)			52.9	9.6	17.8	17.2	2.5	
男性(154)			68.8	7.8	12.3	7.8	3.2	
20代(15)			53.3	6.7	26.7	13.3	0.0	
30代(23)			52.2	8.7	4.3	34.8	0.0	
40代(37)			48.6	21.6	8.1	16.2	5.4	
50代(50)			50.0	14.0	20.0	14.0	2.0	
60代(66)			68.2	4.5	15.2	9.1	3.0	
70歳以上(120)			67.5	5.0	15.8	8.3	3.3	

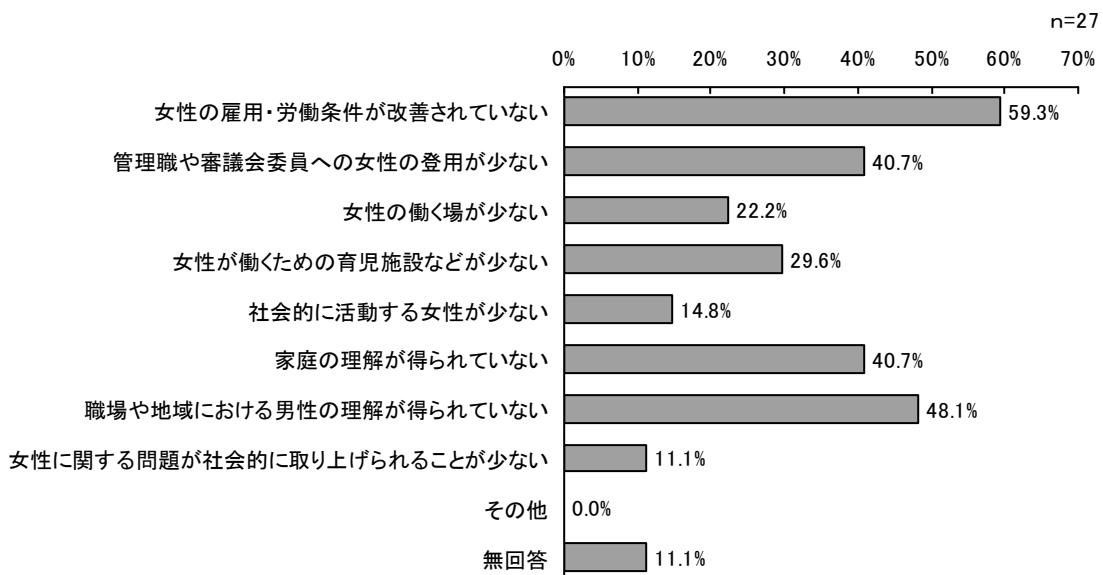
どのような点が向上しているか（地位が向上していると回答した人のみ）



単位：%

性別	年齢別	n=	女性の雇用・労働条件が改善されてきた	管理職や審議会委員への女性の登用が増えてきた	女性の働く場が増えたきた	女性が働くための育児施設などが増えてきた	社会的に活動する女性が増えてきた	家庭の理解が得られるようになった	職場や地域における男性の理解が得られるようになった	女性に関する問題が社会的に取り上げられるようになった	その他	無回答
			女性	83	60.2	39.8	37.3	22.9	68.7	42.2	21.7	49.4
男性	106	64.2	46.2	50.0	18.9	64.2	28.3	18.9	50.0	0.0	3.8	
	20代	8	62.5	50.0	25.0	12.5	87.5	12.5	12.5	25.0	0.0	12.5
	30代	12	66.7	25.0	50.0	33.3	58.3	33.3	16.7	33.3	0.0	8.3
	40代	18	66.7	50.0	38.9	27.8	72.2	44.4	11.1	61.1	0.0	0.0
	50代	25	68.0	68.0	44.0	20.0	64.0	36.0	28.0	44.0	0.0	0.0
	60代	45	64.4	37.8	46.7	22.2	66.7	26.7	15.6	51.1	0.0	2.2
	70歳以上	81	58.0	39.5	45.7	17.3	64.2	38.3	23.5	53.1	0.0	1.2

どのような点が向上していないか（地位が向上していないと回答した人のみ）



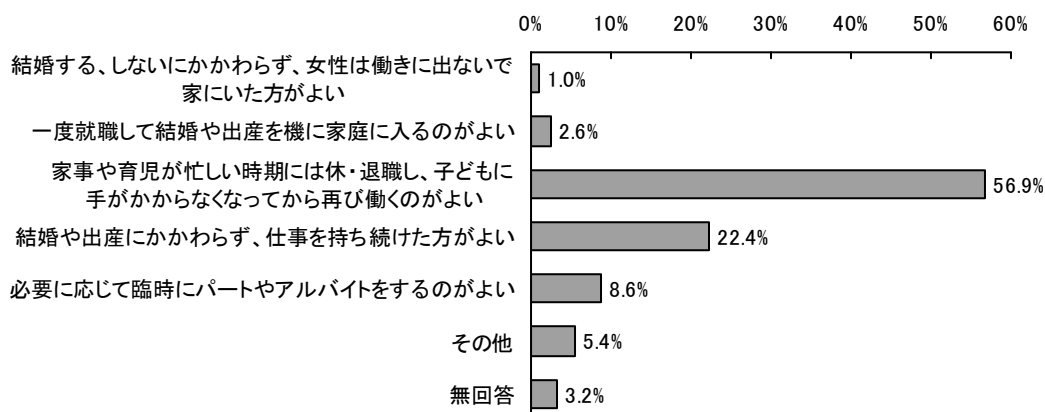
		n=	女性の雇用・労働条件が改善されていない	管理職や審議会委員への女性の登用が少ない	女性の働く場が少ない	女性が働くための育児施設などが少ない	社会的に活動する女性が少ない	家庭の理解が得られていない	職場や地域における男性の理解が得られていない	女性に関する問題が社会的に取り上げられることが少ない	その他	無回答
性別	女性	15	66.7	33.3	26.7	33.3	20.0	46.7	53.3	6.7	0.0	6.7
	男性	12	50.0	50.0	16.7	25.0	8.3	33.3	41.7	16.7	0.0	16.7
年齢別	20代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	30代	2	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	40代	8	50.0	62.5	25.0	50.0	25.0	37.5	37.5	12.5	0.0	0.0
	50代	7	85.7	28.6	28.6	0.0	0.0	42.9	71.4	0.0	0.0	0.0
	60代	3	100.0	33.3	33.3	66.7	33.3	66.7	66.7	33.3	0.0	0.0
	70歳以上	6	33.3	16.7	16.7	33.3	16.7	16.7	33.3	0.0	0.0	50.0

一方、アンケート調査では、女性の生き方について「家事や育児が忙しい時期には休・退職し、子どもに手がかからなくなってから再び働くのがよい」との回答を多くの方が寄せています。このため女性はパート・アルバイトで働く人が多く、アンケート調査でも女性雇用者の半数はパート・アルバイトとなっています。

性別や雇用形態にかかわらず、働きに応じて適正に評価・処遇されるよう事業者に関係法令等の周知を図る必要があります。

### 女性の生き方について

n=313





単位：%

		n=	結婚する、しないにかかわらず、女性は働きに出ないで家にいた方がよい	一度就職して結婚や出産を機に家庭に入るのがよい	家事や育児が忙しい時期には休・退職し、子ども手がからなくなつてから再び働くのがよい	結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けた方がよい	必要に応じて臨時にパートやアルバイトをするのがよい	その他	無回答
性別	女性	157	0.0	2.5	56.1	22.9	10.2	5.7	2.5
	男性	154	1.9	2.6	57.8	22.1	6.5	5.2	3.9
年齢別	20代	15	0.0	6.7	46.7	20.0	6.7	20.0	0.0
	30代	23	0.0	0.0	47.8	30.4	4.3	17.4	0.0
	40代	37	0.0	0.0	54.1	21.6	8.1	13.5	2.7
	50代	50	0.0	2.0	52.0	28.0	6.0	8.0	4.0
	60代	66	0.0	4.5	48.5	31.8	10.6	1.5	3.0
	70歳以上	120	2.5	2.5	67.5	14.2	9.2	0.0	4.2
結婚	既婚(配偶者あり)	215	1.4	1.9	59.1	23.7	7.4	4.7	1.9
	既婚(離死別)	52	0.0	5.8	55.8	13.5	11.5	7.7	5.8
	未婚	45	0.0	2.2	48.9	26.7	8.9	6.7	6.7

## 〈 具体的な取り組み 〉

### 1. 職場における男女雇用平等の推進

職場における男女雇用平等を進めるため、事業者への関係法令の周知を図るとともに、事業者の女性人材の育成活用の取り組みを支援します。

### 2. ワーク・ライフ・バランスを可能にする就業環境の整備

仕事と家庭や地域等の両立支援に関する法制度の定着について事業者や労働者への周知を図り、ワーク・ライフ・バランスを可能にする就業環境の整備を促進します。

### 3. 女性の能力発揮に対する支援

チャレンジできるよう職業能力の開発や相談体制の充実、職業情報の迅速な提供を図ります。

#### 村民の意見から

- 性別に関係なく住み良い環境づくりと村内の雇用先を増やしてほしいと思います。企業、研究期間、教育期間など村民の就業先となる誘致を検討して欲しいです。(女性・30代)
- 村内での男女の就業の場を確保し、お互いに結婚しても職場から生活の場所が近い所で家族が見守れる環境が出来たら良いと思います。(男性・40代)

## 2. 男女が共に担う家事、子育て、介護

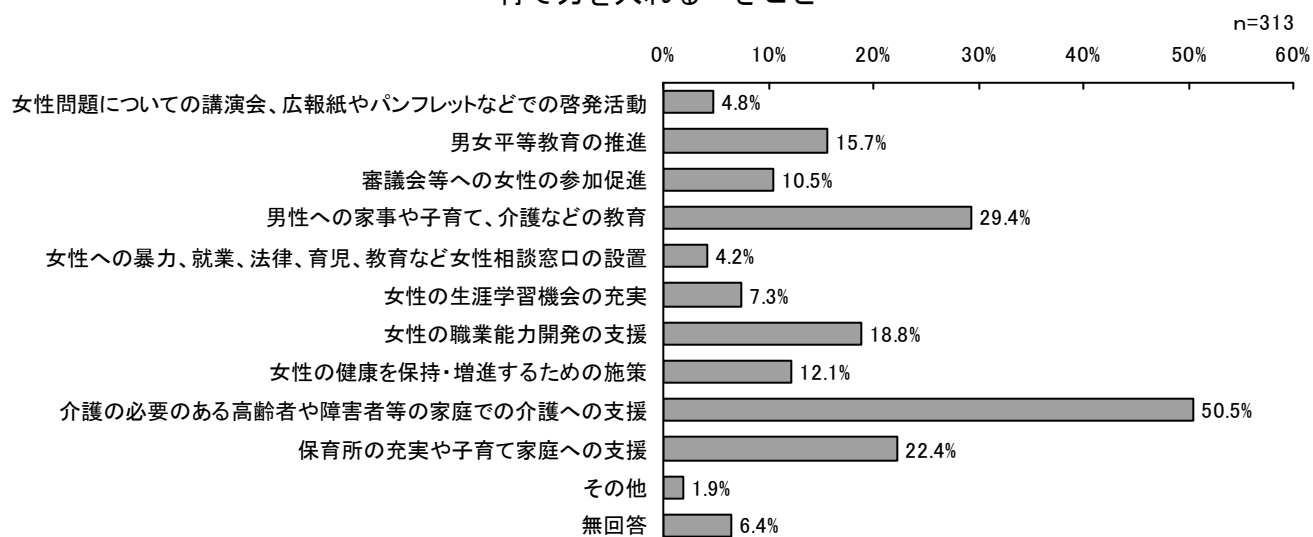
家事、子育て、介護の多くを女性が担っている現状がありますが、男女が共に家事や子育て、介護に関わり、責任を担うとともに、社会がこれを支援していく必要があります。

アンケート調査では、男女共同参画社会の実現に向け村で力を入れるべきこととして「介護の必要のある高齢者や障害者等の家庭での介護支援」が50.5%と最も多くあげられ、次いで「男性への家事や子育て、介護などの教育」29.4%と続きます。「介護の必要のある高齢者や障害者等の家庭での介護支援」については、女性では70歳以上の63.1%に次いで30代が56.3%となっています。男性は50代の65.5%、70歳以上の52.7%と続き、女性への負担を垣間見ることができません。

育児や介護については、社会的支援が進みつつありますが、十分とはいえない状況があります。家事、子育て、介護といった家庭生活の負担は、その大部分を女性が担うことが多く、こうしたことは、女性が仕事を続けることをあきらめる要因ともなっています。また育児については、考え方では母親が育てるべき、介護は家族が担うべきといった考え方もみられます。

少子高齢化が進む中で安心して子どもを産み育て、家族としての責任を果たせるよう、男性の家庭生活への積極的な係わりが必要となっています。

村で力を入れるべきこと



		n=	女性問題についての講演会、広報紙やパンフレットなどの啓発活動	男女平等教育の推進	審議会等への女性の参加促進	男性への家事や子育て、介護などの教育	女性への暴力、就業、法律、育児、教育など女性相談窓口の設置	女性の生涯学習機会の充実	女性の職業能力開発の支援	女性の健康を保持・増進するための施策	介護の必要のある高齢者や障害者等の家庭での介護への支援	保育所の充実や子育て家庭への支援	その他	無回答
性別	女性	157	3.8	14.0	7.6	37.6	4.5	12.1	19.7	12.1	54.1	21.7	1.3	2.5
	男性	154	5.8	17.5	13.6	21.4	3.9	2.6	18.2	12.3	47.4	23.4	2.6	9.1
年齢別	20代	15	0.0	33.3	0.0	26.7	0.0	20.0	20.0	6.7	33.3	33.3	0.0	6.7
	30代	23	8.7	13.0	8.7	30.4	4.3	4.3	4.3	17.4	43.5	47.8	0.0	4.3
	40代	37	2.7	5.4	2.7	37.8	8.1	5.4	18.9	8.1	27.0	32.4	5.4	10.8
	50代	50	2.0	10.0	16.0	36.0	4.0	0.0	24.0	8.0	58.0	24.0	4.0	2.0
	60代	66	10.6	15.2	7.6	30.3	6.1	1.5	21.2	9.1	51.5	25.8	1.5	6.1
	70歳以上	120	3.3	20.0	14.2	24.2	2.5	13.3	18.3	16.7	58.3	10.8	0.8	5.8
性・年齢別	女性-20代	7	0.0	28.6	0.0	28.6	0.0	28.6	28.6	0.0	28.6	42.9	0.0	0.0
	女性-30代	16	6.3	12.5	6.3	31.3	0.0	6.3	6.3	12.5	56.3	50.0	0.0	6.3
	女性-40代	15	6.7	6.7	0.0	40.0	20.0	6.7	33.3	6.7	33.3	26.7	0.0	0.0
	女性-50代	21	0.0	9.5	19.0	57.1	0.0	0.0	23.8	9.5	47.6	19.0	4.8	0.0
	女性-60代	33	12.1	15.2	3.0	45.5	6.1	0.0	18.2	12.1	54.5	21.2	3.0	3.0
	女性70歳以上	65	0.0	15.4	9.2	29.2	3.1	23.1	18.5	15.4	63.1	12.3	0.0	3.1
	男性-20代	8	0.0	37.5	0.0	25.0	0.0	12.5	12.5	12.5	37.5	25.0	0.0	12.5
	男性-30代	7	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0	28.6	14.3	42.9	0.0	0.0
	男性-40代	22	0.0	4.5	4.5	36.4	0.0	4.5	9.1	9.1	22.7	36.4	9.1	18.2
	男性-50代	29	3.4	10.3	13.8	20.7	6.9	0.0	24.1	6.9	65.5	27.6	3.4	3.4
	男性-60代	33	9.1	15.2	12.1	15.2	6.1	3.0	24.2	6.1	48.5	30.3	0.0	9.1
男性70歳以上	55	7.3	25.5	20.0	18.2	1.8	1.8	18.2	18.2	52.7	9.1	1.8	9.1	
地域住	大河原	196	4.6	17.3	9.2	33.2	4.1	6.1	17.3	12.8	52.0	21.4	1.5	6.6
	鹿塩	115	5.2	13.0	13.0	22.6	4.3	9.6	21.7	11.3	48.7	24.3	2.6	5.2
結婚	既婚(配偶者あり)	215	6.0	15.8	10.7	28.8	1.9	5.6	21.9	13.5	52.1	24.2	2.3	5.1
	既婚(離死別)	52	3.8	17.3	11.5	26.9	5.8	17.3	11.5	13.5	46.2	17.3	1.9	9.6
	未婚	45	0.0	13.3	8.9	35.6	13.3	4.4	13.3	4.4	48.9	20.0	0.0	6.7

## 〈 具体的な取り組み 〉

### 1. 男性の家庭生活への参画

男女が家族の一員としての役割を共に担い、調和のとれた家庭生活を送ることができるよう、男性の意識改革を働きかけるとともに、育児・介護技術の習得などの学習活動を支援します。

### 2. 子育て、介護の社会的支援の充実

男女ともに仕事と家庭生活の両立を図ることができるよう、多様なライフスタイルに対応した保育・介護サービスや相談体制の拡充など子育てや介護の社会的支援を充実します。

### 3. 仕事と家庭の両立支援

事業所に対して、仕事と家庭生活が両立できる制度の周知や情報提供を図るとともに、事業所の取り組みを支援します。また、男性の働き方の見直しや家事、子育て、介護への参画を促進するモデル事例の提供を図ります。

## 村民の意見から

- 人それぞれ能力の違いがあるので、家事、子育て、介護など男性が経験する機会を増やし、3K（家事、子育て、介護）の技能評価を適切にしていくべきではないかと思う。適材適所の考えは生産効率や人材育成に大きな効果を生むと思われる。(男性・60代)
- 介護の必要な方への支援は本当に必要と思います。(女性・30代)
- 子育て、介護は片寄りのない（誰でも見守れる）生活支援ができると良い。(女性・50代)
- 子育てをしている人（男女問わず）が、安心して働ける職場というのはまだまだ少ないと思います。大きな職場では、子供が遊ぶスペースが必要な事や子供の事情で仕事に穴を空けることが当然の権利であるという風に思える人が増えれば良いなと思います。(男性・20代)
- 村では生産年齢人口が少ないので、保育所の時間延長や休日預かりの対応が、もう少し充実してほしいと思う。子育てしながら働ける環境をつくり、若い人たちに働く意欲をもてるよう、取り組んでもらえると嬉しい。核家族では、祝日などに子どもを預けられないので職場を休むが、地域で協力したり、サポートする方がいてくれるとありがたいです。(女性・30代)

### 3. 政策・方針決定への女性参画の拡大

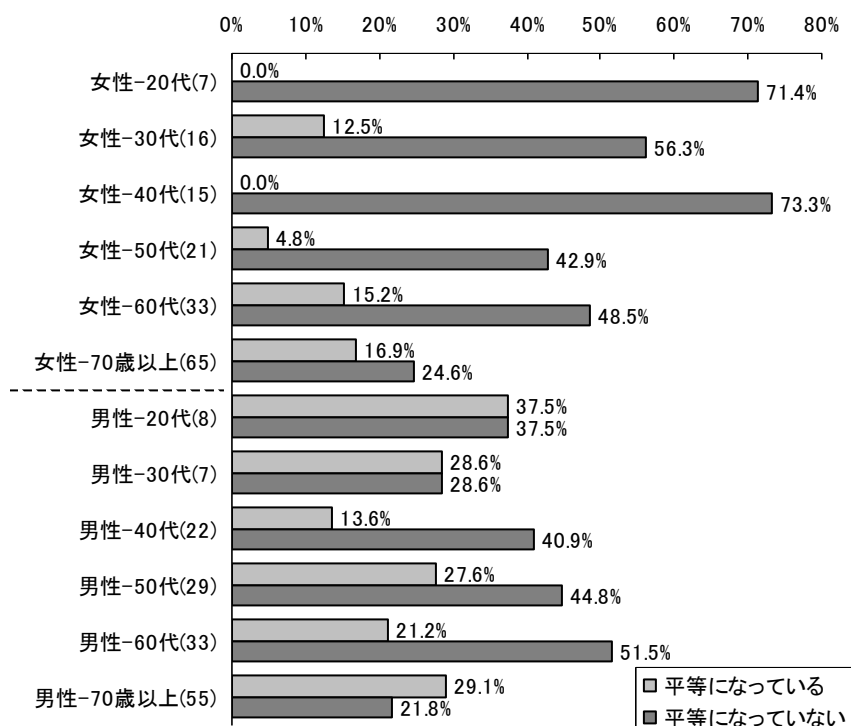
将来にわたり、持続可能で多様性に富んだ活力ある社会を目指すには、あらゆる分野に女性の参画を進め、多様な視点、新たな発想の導入に努める必要があります。

しかし、女性が村の政策決定に際して参画している割合は低いのが現状です。また、地域においても何か物事を決める役職には男性が就くことが多い現状があります。

アンケート調査では、家庭生活、職場、地域社会といった分野の中では「平等になっていない」との回答が最も多いのが「地域社会」でした。なかでも20代及び40代の女性は7割を超える回答となっています。

人口減少と少子高齢化が進む地域社会を取り巻く課題を解決するためには、男女ともに地域活動に参画し、いきいきと活力ある地域社会を創造していく必要があります。

地域社会が「平等になっている」「平等になっていない」



## 〈 具体的な取り組み 〉

### 1. 審議会等への女性参画

女性の意見が広く村政に反映できるよう、参画の機会充実と審議会等への女性委員の参画を図ります。また、女性職員の職域拡大を図るとともに、管理職への登用を図ります。

### 2. 地域の社会活動への女性参画

自治会の方針決定の場への女性参画を進めるとともに、男女がともに参画しやすい行事や会議の開催に努めます。

### 3. 女性人材の発掘・育成

女性人材情報の収集・提供を進めるとともに、女性人材の発掘・育成に努めます。

#### 村民の意見から

- ・「先ず隗より始めよ」役場の中には女性の長のつく人が少ないように見られます。能力の高い人もいらっしゃるのですから、まず役場の中から女性の率先した登用をされるといいのでは？性差より適材適所、能力重視も必要と考えます。「大鹿村は女性がいきいき働いている」といわれるには、まず村から！（女性・50代）
- ・男女を問わず各分野で個人の能力を充実して発揮出来、その能力を常に助長する、バックアップ体制の施された自治体であってほしいと願います。（女性・60代）
- ・意見交換会等において、もっと一般の人が発言できる場（井戸端会議のような雰囲気の中）があればもっと率直な思いが出るのではないかと思います。（女性・50代）